

施策評価シート

施策等名称	発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進	体系番号	0301010202
		主管課	美サイクルセンター

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市の一人一日当たりごみ排出量は、全国平均や長野県平均より多い状況にあり、家庭系ごみ、事業系ごみ共に一層の発生抑制・排出抑制・資源化等を進める必要がある。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	本地域は、白樺湖や蓼科湖、蓼科高原などに代表される八ヶ岳山麓特有の景観を形成しており、本地域の象徴的な自然環境特性を有していることから、本計画では循環型社会の形成により本地域の自然環境との調和を目指す。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値
				2027年度目標値
①	リサイクル率	資源物量/年間ごみ量 × 100 (%)	13.82	30.00 ごみ処理基本計画改定時に設定
②				
③				

施策の柱 1	名称	循環型まちづくりの推進		主管課	美サイクルセンター		
	詳細	リサイクル・リユースを推進するため、茅野環境館の利用促進、資源物分別の啓発及び適正な収集に取り組む。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	茅野環境館来館者数	年間来館者数 (人)	10915.00	11000.00 11100.00	1 茅野環境館管理運営事業 2 資源物収集処理事業	実施 実施
	2	リサイクル率	資源物量/年間ごみ量 × 100 (%)	13.82	30.00 ごみ処理基本計画改定時に設定	3 環境美化推進事業 4	実施
	3					5 6	
	基本政策間連携						

施策の柱 2	名称			主管課		
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1 2	
	2				3 4	
	3				5 6	
	基本政策間連携					

施策の柱 3	名称			主管課		
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1 2	
	2				3 4	
	3				5 6	
	基本政策間連携					

施策等名称	発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進	体系番号	0301010202
		主管課	美サイクルセンター

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	リサイクル率	13.82	14.24	13.98	14.52	14.53	
		1	30.00	47.47	46.60	48.40	48.43
変動要因等	2018年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し可燃ごみの総排出量が減少したため					
	2019年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2020年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2021年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持している					
	2022年度						
柱1	茅野環境館来館者数	10915.00	9625.00	9195.00	8727.00	9467.00	
1		11000.00	87.50	83.59	79.34	86.06	0.00
変動要因等	2018年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる					
	2019年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる					
	2020年度	4月休館としたため					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響による休館日数が減少したため来館者数が増加した					
	2022年度						
柱1	リサイクル率	13.82	14.24	13.98	14.52	14.53	
2		30.00	47.47	46.60	48.40	48.43	0.00
変動要因等	2018年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し可燃ごみの総排出量が減少したため					
	2019年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2020年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2021年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持している					
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進	体系番号	0301010202	
		主管課	美サイクルセンター	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		
投資額	事業費(円)	126,188,047		119,742,522	0.95	122,376,779	1.02	114,263,642	0.93	76,615,000	0.67	
	うち一財(円)	112,547,105		107,332,568	0.95	108,859,135	1.01	104,606,748	0.96	67,057,000	0.64	
	増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)											
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		遅れている				
総合評価	主な取組内容や成果	可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための必要な取り組みである。		可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための必要な取り組みである。		排出される可燃ごみを減量するため、資源化を推奨し適切に処理するための周知や、美サイクル茅野と連携した取り組みを継続して行っている。また、環境館では3Rの普及活動の取り組みとしてリユースを推進している。		排出される可燃ごみを減量するため、資源化を推奨し適切に処理するための周知や、美サイクル茅野と連携した取り組みを継続して行っている。また、環境館では3Rの普及活動の取り組みとしてリユースを推進している。				
	課題	排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行うことが必要である。		排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行うことが必要である。		排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行うことが必要である。		排出されるごみの量は減少傾向にある。リサイクル率の変化は見られない。引き続き市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行うことが必要である。				
改革・改善	改革・改善内容	ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を行う。		ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を行う。		ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を継続する。		ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。ごみの出し方のでびきの作成配布等ごみ減量のPR活動を実施する。				
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1			
		重点事務事業	3		3		3		3			
理由	環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。		環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。		環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。		環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、PR等の活動が重要である。					

作成担当者	守屋正弘	武居直樹	金井和人	伊藤研一	
最終評価責任者	堀内俊彦	岩島善俊	岩島善俊	小平雅文	
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月17日	2021年5月28日		